



静岡市葵区鷹匠一丁目1番1号  
静岡鉄道株式会社

## 「COOL CHOICE 2022 in しずおか」の効果検証結果と 脱炭素社会へのさらなる貢献を目指す「静鉄沿線」での取り組みについて

静岡鉄道株式会社（本社:静岡市葵区鷹匠、取締役社長:川井敏行）は、環境に配慮した活気ある静岡のまちを地域の皆様とともに作り上げていくために、「環境」と「経済」が両立した脱炭素社会の実現に向けて取り組んでいます。

昨年11月19日には、静岡市内の静鉄電車・静鉄バスを無料にし、“CO<sub>2</sub>排出の少ない公共交通に乗る”という行動をきっかけに、さまざまなゼロカーボンアクションを提案するワンデーイベント「COOL CHOICE 2022 in しずおか ～みんなではじめる、工な選択～」を開催しました。当日は、多くの市民の皆様にご参加いただき、CO<sub>2</sub>排出量の削減に寄与したほか、さまざまな団体との連携イベントにより人流を促進し、経済波及効果を生むことができました。これらの効果を環境・経済・社会面で検証した結果について、下記の通りお知らせします。

また、今後も「COOL CHOICE in しずおか」を継続して開催していくとともに、脱炭素社会の実現に向けた取り組みをさらに加速させるため、このたび、地域脱炭素の推進と鉄道沿線の価値向上を目指す「清水静岡レイルグッド構想」を策定しました。昨日よりその実現可能性の調査・検討を進めておりますが、同調査が国土交通省の補助制度の対象事業に採択されました。

### 記

#### ■ COOL CHOICE 2022 in しずおかについて

##### 1. 開催結果と効果検証

###### ① 実施内容

- ・静岡市内の静鉄電車・静鉄バスの終日無料
- ・行政、企業、団体と連携した体験イベントの開催

###### ② 利用者数推計(延べ人数)

- ・静鉄電車 51,550人(通常時:11/12(土比較 +34,287人) 298.6%)
- ・静鉄バス 約68,000人(通常時:11/26(土比較 約+30,000人) 約180%)

###### ③ 効果検証 ※詳細は別紙参照

- ・イベントを開催した一日の効果として、環境・経済・社会面で、静岡のまちで起きた変化

	項目	推計	備考
環境面	交通モード転換者数※	約3万人	・一般財団法人計量計画研究所調べ ※移動手段を自動車から鉄道・バスへ転換した人数
	CO <sub>2</sub> 排出削減量	約52t	・杉の木約5,900本の1年間のCO <sub>2</sub> 吸収量に相当
経済面	経済波及効果	約4億円	・一般社団法人静岡経済研究所調べ
	にぎわい創出効果	前週より活発化	・人流分析ツール「KDDI Location Analyzer」を用いて静岡市内全域の来訪者を推計
社会面	渋滞緩和への影響	ほぼ変化なし	・江川町交差点周辺の車両感知器で自動車交通量を測定

・イベント当日に静岡市内4カ所で実施した街頭インタビュー調査の結果(有効回答数1,112名)



当日の新静岡駅の様子



バスターミナルの様子

## 2.今後の開催について

今後も“CO<sub>2</sub>排出の少ない電車・バスに乗る”という行動を含むゼロカーボンアクションを提案する「COOL CHOICE in しずおか」を継続して開催していくことで、脱炭素につながる「COOL CHOICE」の認知度をさらに向上させてまいります。また、人口減少、地球温暖化、コロナ禍の人流縮小といった問題に対しても、環境に配慮した活気ある静岡のまちを地域の方々と一緒に作り上げていく本取り組みが果たせる役割があると考えています。

### ①次回開催予定日

2023年11月18日(土)

### ②主な実施内容

- ・静鉄電車・静鉄バスに関する施策は、対象路線も含めて決まり次第公表いたします。
- ・さまざまな団体と連携した体験イベントも引き続き開催。静鉄電車・静鉄バスの沿線を中心に、ゼロカーボンアクションを楽しみながら学び、体験できるイベントを実施します。

## ■清水静岡レイルグリッド構想について

### 1.背景

これまで当社では、新型車両導入による省エネルギー化や、再生可能エネルギー由来のCO<sub>2</sub>フリー電気の活用など、鉄道事業における脱炭素化を進めてまいりました。今後もこれらの取り組みを継続するとともに、鉄道沿線にまでその範囲を広げていくことで、鉄道を「交通インフラ」から「脱炭素インフラ」へと転換し、沿線の魅力や暮らしやすさを高めていきたいと考えています。

### 2.構想の概要

「清水静岡レイルグリッド構想」は、鉄道沿線で発電された再生可能エネルギーを、当社が所有する鉄道軌道上の鉄道架線を活用して送電し、沿線施設へ配電したり、自社施設で利用したりすることにより、再エネ導入を拡大し、地域脱炭素の実現や沿線の防災レジリエンス等の価値の向上を目指しています。昨日より、構想の実現および事業化のための調査を進めておりますが、同調査については国土交通省がすすめる「鉄道分野での脱炭素の取り組み加速化の方針」に合致しており、「鉄道脱炭素施設等実装調査に対する補助制度<sup>\*</sup>」の対象事業に採択されました。

#### 【事業概要】

- ・調査名称 静岡鉄道軌道を活用した再エネ導入拡大と沿線価値向上に資する基盤整備調査業務
- ・調査期間 2023年3月30日～2024年3月31日（約1年間）
- ・調査範囲 静岡鉄道静岡清水線 11km および沿線エリア
- ・調査主体 静岡鉄道株式会社

#### 「清水静岡レイルグリッド構想」イメージ図



※鉄道脱炭素施設等実装調査に対する補助制度(国土交通省)

2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、鉄道分野においてもカーボンニュートラルに関する取り組みを加速化させるため、鉄軌道事業者等が行う鉄軌道事業の脱炭素化および鉄軌道事業者が所有する資産を活用した脱炭素化に資する施設等の整備等に関する調査・検討を対象に創設された補助制度

以上

この件のお問い合わせは下記へお願いいたします

未来事業創造部  
□未来事業創造課  
□直通電話：(054)254-7026

# COOL CHOICE 2022 in しずおか 効果分析レポート

- 移動に伴うCO<sub>2</sub>排出量を削減するためには、みんなが必要以上に移動しなければよいということになりますが、我々はそのようなまちを目指しているわけではありません
- 静鉄グループは、今まで以上に人々が生き生きと外で活動が行われる静岡市となり、その活動に伴う移動から排出されるCO<sub>2</sub>を極力抑えることを通じて、地域経済の活性化、健康の増進、安全安心なまちとなることが大切であると考えています
- COOL CHOICE 2022 in しずおか は、我々が目指す未来の実現に向けて、みんなでよりよい選択をしていくことができるようなきっかけをつくるためのものです

みなさんに電車・バスを使ってもらった実験をした結果、  
まちに**にぎわい**が生まれ、**健康**や**安全安心**を高めることができる  
ことがわかりました

## COOL CHOICE 2022 in しずおか の効果

経済波及効果  
4億円



まちなかの  
歩行者数  
1.25倍



外出が増える人  
70%



運転免許  
返納意向がある人  
58%



CO<sub>2</sub>排出削減量  
52 t-CO<sub>2</sub>



杉の木約5,900本の  
1年間の吸収量に相当

- 普段自動車を利用している人が、イベント当日に静鉄電車・バスを利用したことによるCO<sub>2</sub>排出量の削減効果は52t-CO<sub>2</sub>であり、これは杉の木約5,900本分の年間吸収量に相当
- 日常的に電車・バスを利用する意識が高まれば、CO<sub>2</sub>排出量を一定量削減することができる

イベントによる  
CO<sub>2</sub>排出削減量  
(1日あたり)

52 t-CO<sub>2</sub>

杉の木約5,900本の  
1年間の吸収量に相当



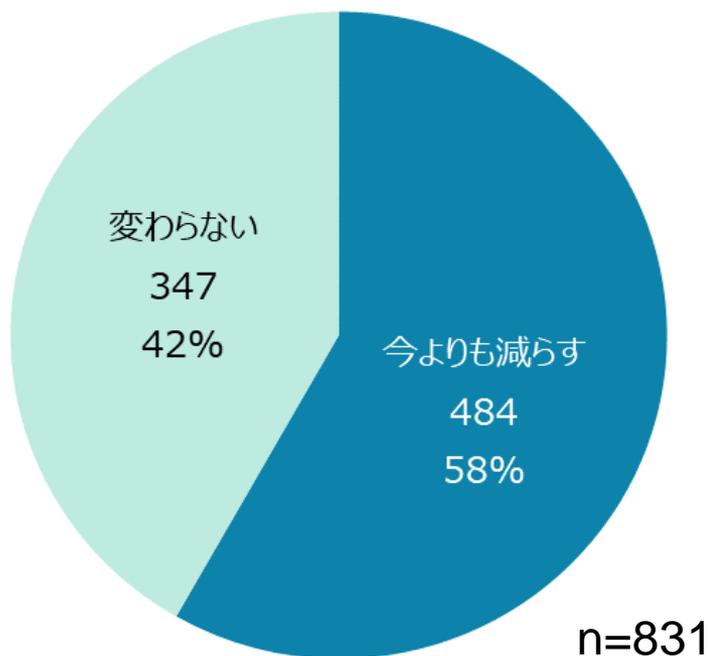
**試算** 例えば、普段自動車を利用している人が、電車・バスを日常的に利用するようになると

10,000人が転換した場合 年間12,500t-CO<sub>2</sub> 杉の木約140万本相当

30,000人が転換した場合 年間37,600t-CO<sub>2</sub> 杉の木約427万本相当

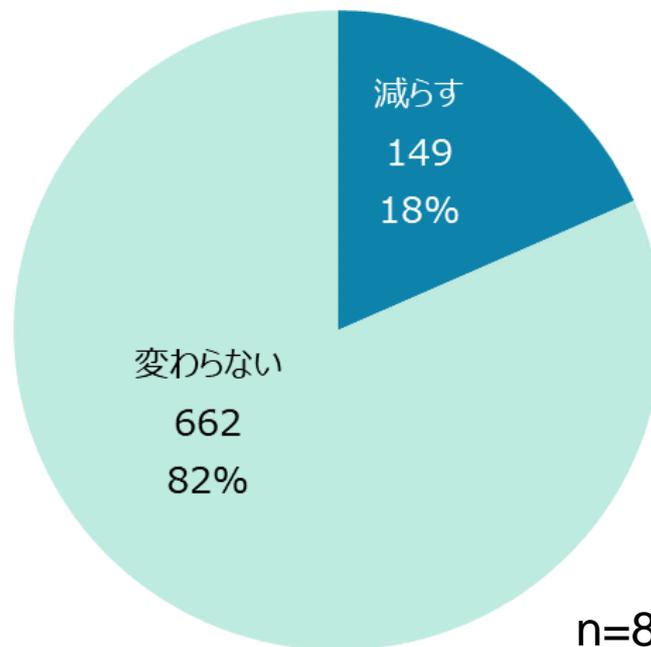
- 電車やバスの利便性が高まれば、自動車の利用を今よりも減らすと回答した人が約6割であり、自動車保有については減らすと回答した人が約2割であった
- みなさんがより利用しやすい公共交通を実現することで、自動車、電車、バスの上手な使い分けが進み、CO<sub>2</sub>排出量の削減につながることを期待される

電車・バスが利用しやすい場合の  
マイカー利用に対する意識



※マイカー非運転者、  
未回答は除く

電車・バスが利用しやすい場合の  
自動車保有に対する意識



※マイカー非保有者、  
未回答は除く

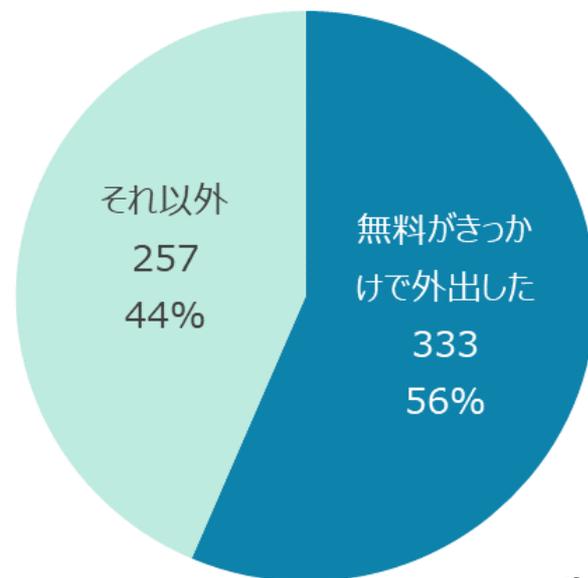
- イベント当日、静鉄電車やバスで移動した人による経済波及効果は約4億円
- 電車・バスの無料が外出するきっかけとなったことで、一定の経済波及効果が得られた



静鉄電車・バスで  
当日移動した人による  
経済波及効果

約 **4** 億円

静鉄電車・バスが無料で外出したか



n=590

※未回答は除く

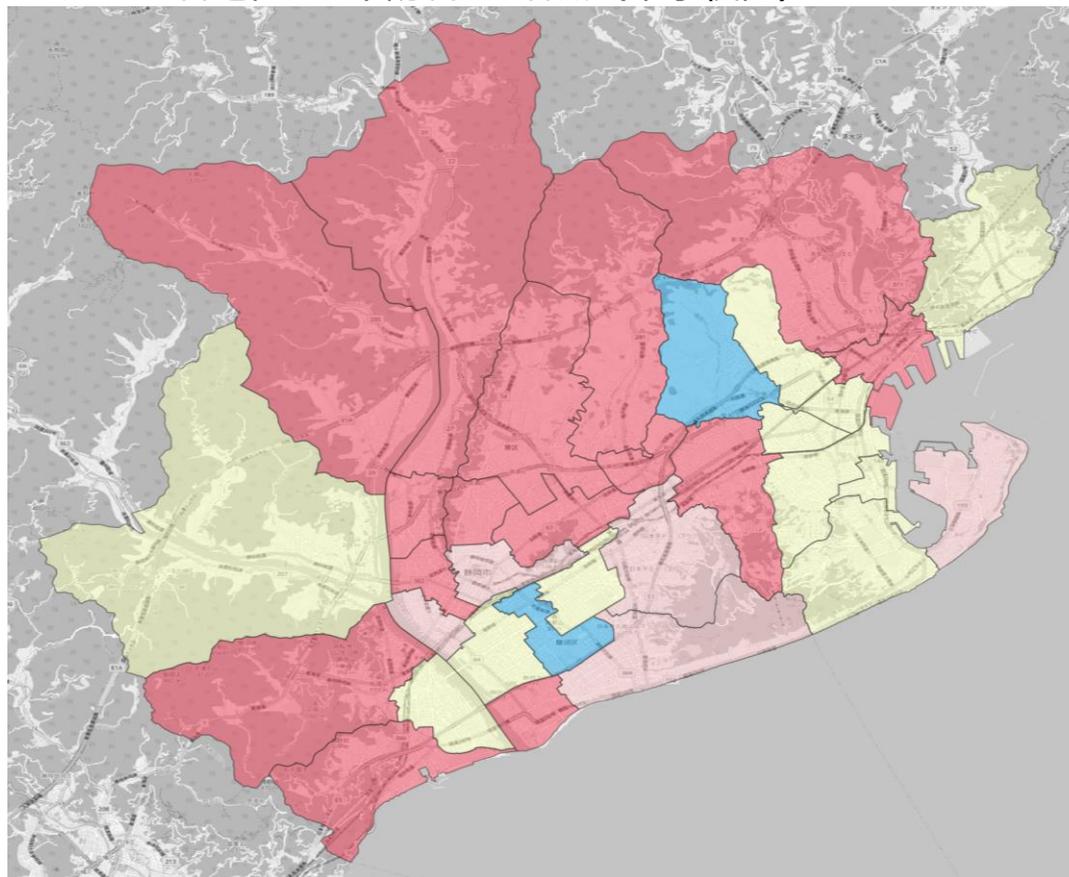
<推計条件>

- ・経済波及効果の推計エリアは静岡市内を対象とし、「平成27年静岡市産業連関表」を用いて推計した。
- ・来場者数（総数）は、鉄道利用者（51,550人）とバス利用者（68,134人）の合計119,684人とした。
- ・消費単価（1人当たり支出額）については、街頭インタビュー調査より、平均3,099円と設定した。

- 静岡市の市街地部のほぼ全域において前週よりも来訪者数が増加
- イベントが、静岡市全域における活動の活発化に貢献したと考えられる

各地区への来訪者※の増減（中学校区）

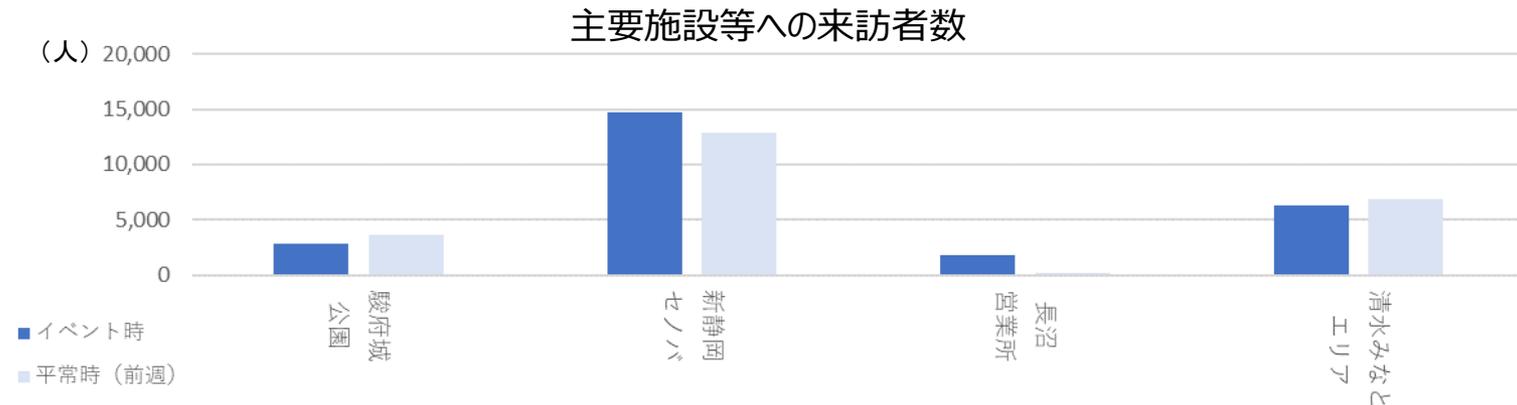
※ 中学校区をまたいで移動した人の数



資料：KDDI Location Analyzerより作成

## ②にぎわい創出効果

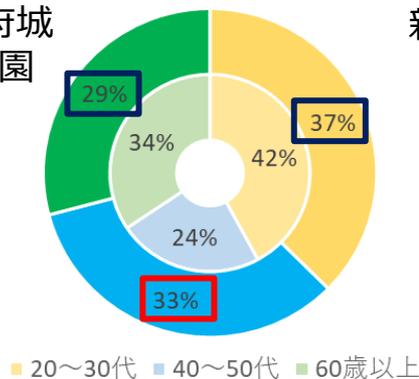
- イベント当日と前週を比較すると、新静岡セノバ、長沼営業所は来訪者が増加した一方、前週に他のイベントが行われていた駿府城公園、清水みなとエリアでは来訪者数は減少
- 年齢構成をみると、前週と比較してすべての年代がバランスよく来訪していたと推計される



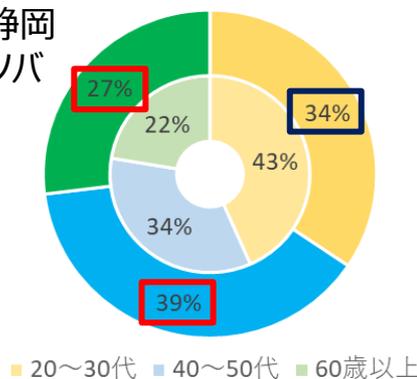
資料：KDDI Location Analyzerより作成より作成

来訪者数の年齢構成

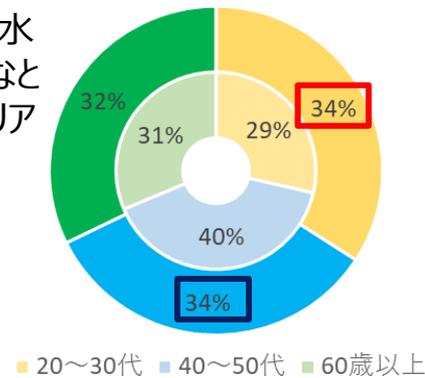
駿府城公園



新静岡セノバ



清水みなとエリア



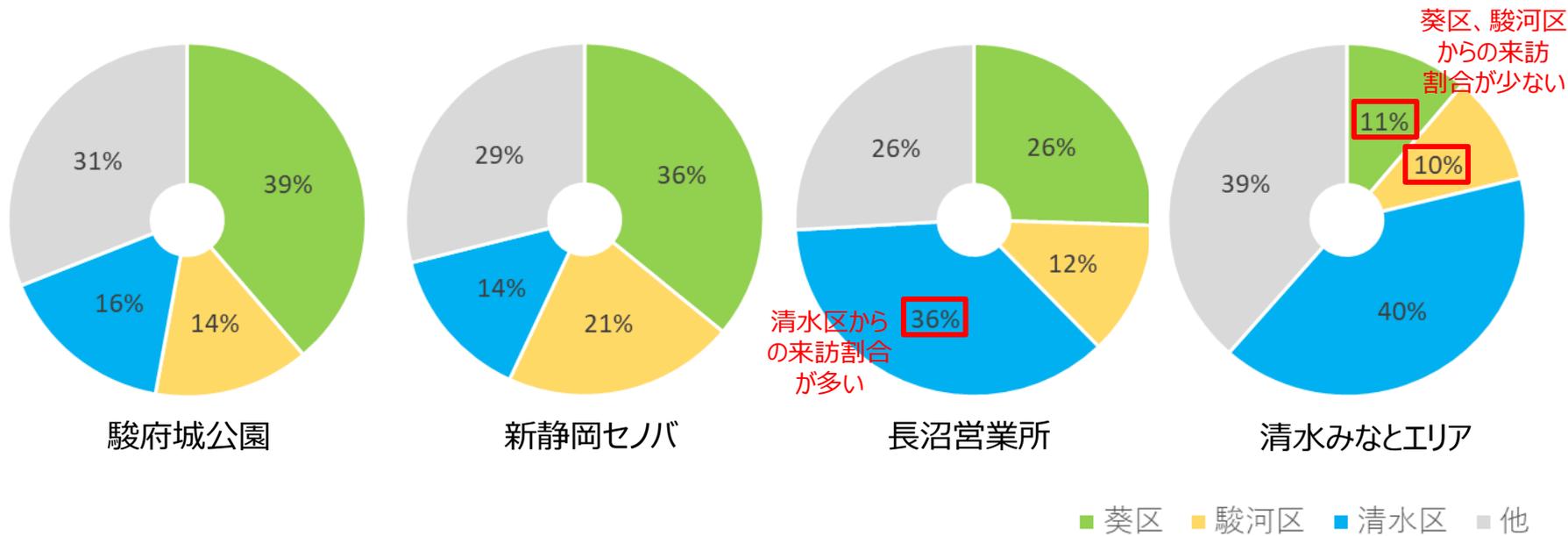
外円：イベント時  
内縁：平常時 (前週)

資料：KDDI Location Analyzerより作成

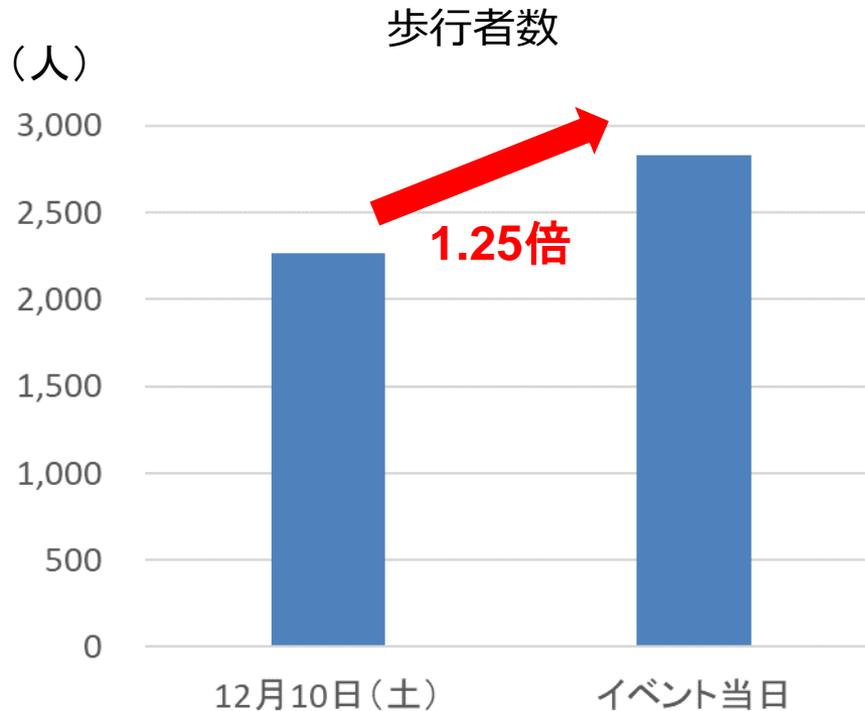
## ②にぎわい創出効果

- 駿府城公園、新静岡セノバは葵区からの来訪が多いが、駿河区、清水区からの来訪も他の2エリアよりも構成比としては大きくなっている
- 長沼営業所は清水区方面からの来訪が最も多いことから、鉄道等により清水区側からの来訪が促進されたと考えられる
- 清水みなとエリアに来訪した人の構成比をみると、葵区や駿河区からの来訪は相対的に少ない

各エリアへの来訪者の居住地構成



- 通常の土曜日（2022年12月10日）とイベント当日の江川町交差点における歩行者交通量を比較するとイベント当日の方が歩行者交通量が1.25倍多くっており、まちなかにおける歩行者の回遊が多くなっていたと考えられる



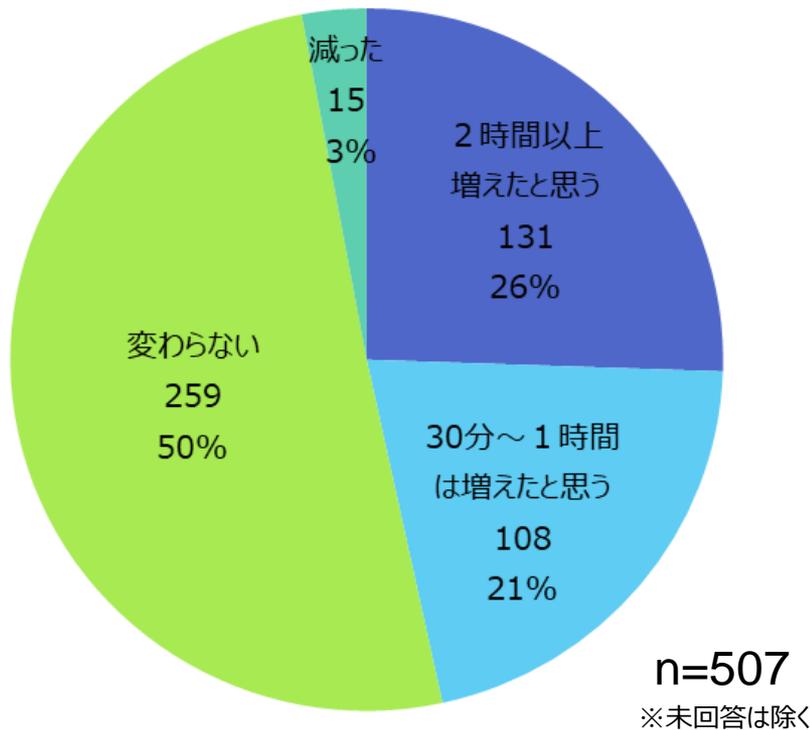
※午前7時～午後19時まで

資料：静岡市都市計画課資料より作成



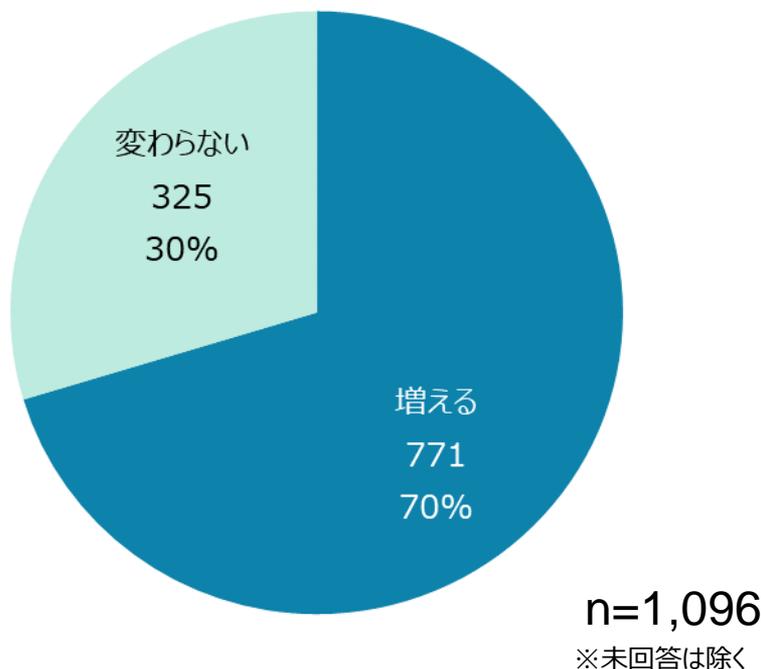
- 電車・バスでまちなかに訪れた人は、マイカーで訪れた場合と比較して、まちなかの滞在時間が伸びたと47%が回答
- 2時間以上増えたと思うと回答した人も25%以上おり、まちのにぎわい創出に貢献したと考えられる

マイカーの場合と比べて、まちなかの滞在時間が伸びたと回答した人



- 近年、外出率（1日1回は家から出かける人の割合）が経年的に減少する傾向にあるが、電車・バスの利便性が高まれば外出が増えると約7割が回答
- 電車・バスでの移動は歩行数の増加による健康増進につながり、医療費削減効果も期待される

電車・バスが利用しやすくなった場合の外出の変化



外出率（地方都市圏、休日）



出典：全国都市交通特性調査、国土交通省

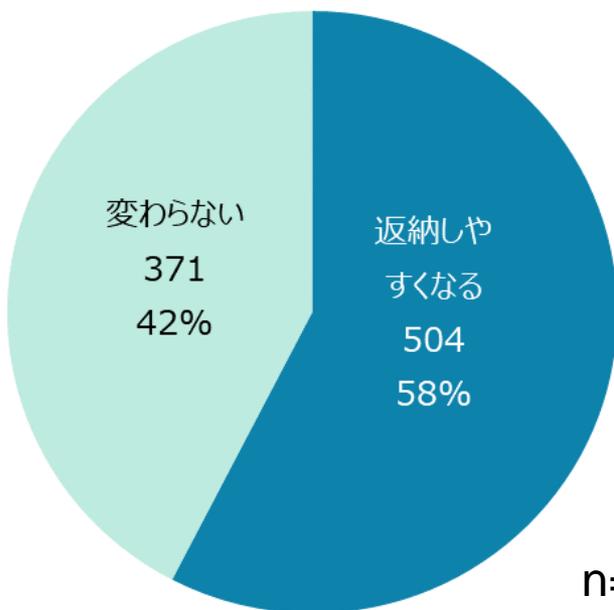
参考：歩行数の増加による医療費削減効果

$$\begin{aligned}
 & \text{（年間の医療費抑制効果）} = \\
 & \quad \text{歩行数の増加した住民数} \\
 & \quad \times \text{1日当たりの歩数増加量} \\
 & \quad \times 0.061 \text{円/歩} \\
 & \quad \times 365 \text{日}
 \end{aligned}$$

出典：健康・医療・福祉のまちづくりの推進ガイドライン（技術的助言）、国土交通省

- 電車・バスが利用しやすくなれば、自動車運転免許が返納しやすくなると約6割が回答
- 高齢ドライバーによる事故は経年的に減少傾向にあるものの、県全体では年間に4,000件を超える事故が発生しており、電車やバスがより使いやすくなれば、事故の削減に寄与することが期待される

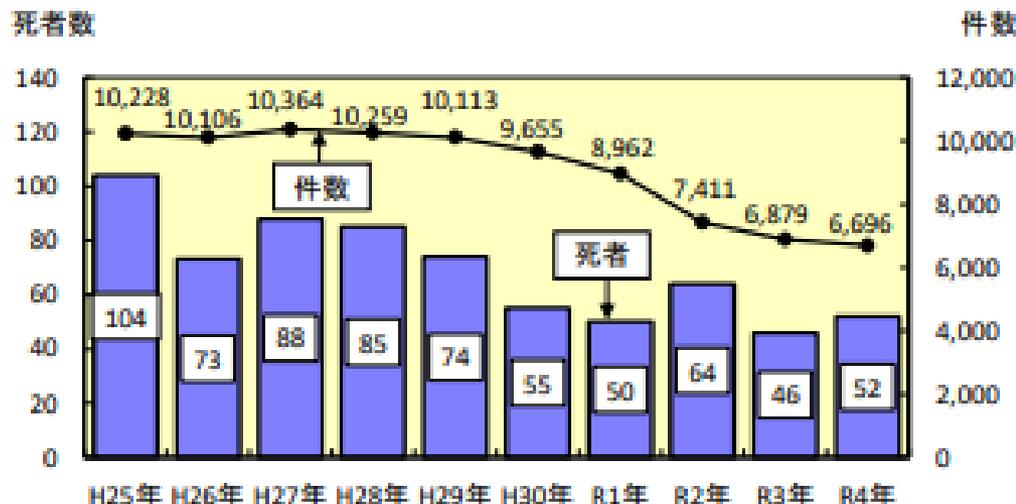
電車・バスが利用しやすくなった場合の自動車運転免許の返納意向



n=875

※自動車運転免許非保有者、未回答は除く

高齢者事故 過去10年間の推移



出典：静岡県の交通事故、静岡県警察交通企画課